

## とにかくやってみた「すいみん」の授業。そして、もっと早くするべきだった「みんどこ」の授業

佐々木 真紀子（元小学校教員）

### 1. 14年ぶりの学級担任

前任校は支援学校。支援学級を持たしてほしいと言ったが、「この学校では担任を持つスタッフが十分なくて・・・」という校長。「ブランクが長いにも関わらずもたすってことは・・・、落ち着いた地域らしいし、きっと落ち着いた子どもたちなんだろう・・・」と勝手に都合よく考えていた。がしかし・・・、40すぎた講師のおばさんには、そんな甘い話はなかった・・・。

### 2. 課題をかかえた子どもたち

Aちゃん・・・家庭環境が複雑。父方の祖母が同居の条件のもと、Aはこの夫婦の元で暮らしてもいいという判断がされていたが、その祖母が出て行ってしまった。遅刻・欠席を繰り返す。一年の時から学習の積み残しも多く、算数・国語はほとんど授業についていけない。支援学級には在籍していない。学校にきても授業がわからずたびたび体の不調を訴え保健室に行く。友達と遊ぶことは大好きだが、友達関係のトラブル、特に配慮を要する男子児童たちとの激しいトラブルは日常茶飯事。

Bちゃん・・・この年度途中から、家がかわり、母親と継父と暮らすことになった。本人にしたら突然の出来事であった。明るくおもしろい面もあるが、生活を反映してか気持ちに波があり、人の嫌がることや、心を傷つける事をくり返す。他児童からの被害報告が絶えない。

Cくん・・・5月頃、落書き事件が起こる。「Cしね」と空き教室の黒板に書いてあった。この件で管理職とともに連日家庭訪問をしたり、学年に指導したりした。この一連の出来事を境にしてCは、授業妨害を繰り返すことになる。また教師の前で自分の首を絞めて「死にたい」とつぶやいたり、危険な行動を繰り返したりするようになる。

Dくん・・・カウンセラーによると自閉症だが、支援学級には入っていない。友達の本にお茶を吐いたり、すぐに手が出たり、他人とのトラブルは日常的。人の物を隠し、みんなを探すと「あったよ～」と真っ先に持って来ることが何回かあった。

E君・・・多動。視知覚に異常があることが検査でわかる。字を書くのが苦しくて、たびたび立ち歩く。

### 3. 今思えば・・・

一学期から様々な問題を表出してくる子どもたちであった。今思えば・・・、反省として「みんどこ」の学習を先にすればよかった。3学期にした「みんどこ」の授業で、Bちゃん、C君はキーパーソンになった。それに、6～7月にあった水泳の授業の着替えの際に、男子児童がふざけて性器を見せるなどの事象もあり、その前に性についての正しい知識を伝える必要もあった。学年にも提案したが、「それは3学期にする」と言われ、それを押し立ててまで実践する精神的・時間的余力もなかった。

#### 4. 授業参観でした「すいみん」の授業

「すいみん」の授業は、9月の授業参観で第4次をした。

同じ学年の他の2クラスは、「三大栄養素」の授業を参観でした。同様の授業をすることも考えたが、うちのクラスの子どもたちがのってくるように思えず・・・、学年には了承を得てうちの組は「すいみん」の授業をすることにした。

授業の経過

1	さまざまな動物の眠り方	眠っている動物の写真、各動物の睡眠時間
2	自分の眠り方（実演など）	ヨガマット バスタオル
3	「すいみん」を科学的に見つめる。	レム睡眠 ノンレム睡眠、 成長ホルモン メラトニン
4	眠りを良くするための工夫（参観授業）	家の人に聞き取りの宿題・班ごとに話し合い、発表

**導入**は、動物の睡眠時間をクイズにした。「一番睡眠時間が長い動物は？」の発問でたくさん手が挙がる。「ネコ」「ネコは、14時間です。ネコも長い方やね」という感じで子どもたちが答えた動物の睡眠時間を黒板に書いていく。この「クイズ形式の授業」がこのクラスでは一番うけた。授業では、なるべく何でもクイズにするようにした。また動物も好きなので眠っている動物の写真を見せながら、各動物の「かわった眠り方」をいくつか説明した。子どもの方から「きりんは、首を蛇みたいに巻きつけてねるよ」と教えてくれた。野生のキリンでは見られないが動物園の子どものキリンは、安心して居るから、座って首をまいて腰の上に投げ出して寝る

らしい。

**2時間目**は、自分が実際にどんな寝方をしているか実演してもらった。教室にヨガマットとバスタオル、ぬいぐるみを用意し、1人ずつポーズをとってもらった。2年生なので、とにかくやりたがった。「このポーズをパンツ一丁でします。」と仰向けで大股開いて寝るS君。ライオンの寝姿と自分の姿が重なったみたいだった。おとなしそうな女子まで、手を挙げて何人も実演してくれた。

その後、「電気を消して寝るか？」「枕を使うか？」などの設問と、「自分が眠っている時の様子を絵にかいてみよう」のプリントをかく。（学級通信参照）

**3時間目**は、「レム睡眠とノンレム睡眠」や、「成長ホルモン」「メラトニン」の説明。説明になるとどうしても何人かの児童は集中できなくなってしまう。「眠るとどんないいことがあるでしょう？」→眠っている脳から元気のもと、元気になるお助けマン「成長ホルモン」がでてくるという感じに、ペープサートや絵を使った説明をするなど工夫が必要だった。

**4時間目**は、今までのことを復習した後、「ぐっすり眠るためのひけつ」「すっきり寝覚めるためのひけつ」を班ごとで出し合い、発表してもらった。事前に、お家の人にも聞き取って書くという宿題を出している。

その後の懇談では、「仕事をしているから帰ってから食事を作ってお風呂・・・となるとどうしても寝るのが遅くなる」という話があり、「科学的根拠のある子育ての手抜き法」（参考文献2の p.82）の「夕食は軽く粗食で」「眠る事を優先する」などのお話をした。保護者の感想（別紙参照）。

## 5. 三学期になっても・・・

この9月の参観授業の後も、課題を抱えた子どもたちの問題事象は続いた。3学期に入りやっと「みんなどこから？」の授業をできると思っていたが、学年では国語の研究授業を抱えていたこともあり、それどころではなくなる。最後の参観は学習発表会ときまっていたこともあり、その練習や準備にも追われる。そんな中で、行った「みんどこ」の授業・・・。最大の反省は「もっと早くすれば良かった・・・」

## 6. 「みんなどこから」の授業

### 授業の経過

1	自分の好きな動物	卵で産まれるか、親と同じ形で産まれるかに分ける。
2	先生の小さかった時の話	三択クイズ
3	家での聞き取りを元に、「この子はだれでしょう？クイズ」	逆子、へその緒、NICU・・・、難しい言葉をその都度説明
4	名前の由来クイズ	東日本大震災の説明
5	赤ちゃんの元はどうやってできるの？	絵・ペープサート

**1時間目**は、自分の好きな動物を絵で描き、好きな理由も書いた。動物の名前を書いた紙の裏に磁石を貼り、「卵で産まれる」か「親と同じかたちで産まれる」かに分けて黒板に貼らせた。「犬は卵で産まれる」と言った子に、Bちゃんは、確信をもって「ちがう」と得意気。Bちゃんは、犬の出産を見たことがあるらしく、卵膜ごとお母さんから出てくる犬の赤ちゃんを絵で描いていた。Bちゃん

は、勘が鋭いところがあり、「先生、この授業だけなんか、めっちゃはりきってるなあ」と言ってきた。（別紙参照）

**2時間目**は、家での聞き取りの宿題の説明も兼ねて、「先生の子どもの時」のクイズ。私の赤ちゃんだった時の写真（拡大）を見せて「この子はだれでしょう？」。すぐにわかると思ったが、クラスの子の名前を言うなど、なかなかあたらない。これは「ささき先生で一す。」という、「えーっ！先生にも赤ちゃんの時あったん！？」

「先生の産まれた時の体重は？」も三択にしてクイズに。「①2000g ②3500g ③4300g」正解は③。予定日より10日遅れてうまれたこと。4000gを超えると「巨大児」と呼ばれる事、すごく難産だったことなどを話した。新生児室で並んでいる赤ちゃんの中でひときわ大きくでかい声で泣いている絵を描き、父親や祖母がびっくりした話をした。

小さかった時のエピソードとして、「先生が鼻に詰めてとれなくなって困ったものは何でしょう？」も三択クイズにして出した。4歳児の時には、同じクラスの女の子が泣いている時に別の女の子と一緒に泣いて「もっと泣け、もっと泣け！」とはやしたてて先生に怒られた話などもした。先生の失敗談やカッコ悪いエピソードは子どもたちはとても好きだった。特にBちゃんは、笑いころげて、給食の時にヘルプにきた先生にも楽しそうにそれらのエピソードを話していた。

**3時間目**は、お家の人から聞き取ったことをもとに、「この子はだれでしょう？」クイズをした。

C君のお母さんは、C君の学校での様子を聞き、1学期の懇談では半分怒りながら泣き、2学期は私に苛立ちをぶつけてきた。府教委に電話し私に対するクレームとして訴

えたらしい。そのお母さんが、この聞き取りの宿題では一生懸命、わが子に話をしてくれたように思う。「へその緒が首にまきついてすぐに泣かなかった」「すぐにNICUに運ばれて保育器にいれられた」など、R君の字で丁寧に綴られていた。みんなの前で読み、へその緒やNICUなど難しい言葉を説明した。

これらの「生まれてくる前後のエピソード」を読み合う最中に紙芝居「赤ちゃんがお腹の中で育つ様子」を読んだ。みんな真剣に見入っていた。その後の感想も一生懸命書いてくれた。

『はじめは、とっても小さくて、7か月で大きくなって頭が下になるのがはじめてわかりました。紙芝居を見て赤ちゃんのこともっと知りたくなりました。』『へそのおを切ったら、おへそになるってわかりました。』『赤ちゃんのもとが、豆よりももっともっと小さいことを初めてしりました。10か月も待って最後にはお腹がすごくいたいんだなと思いました。赤ちゃんのたまごがどうやってできるか知りたいです。』

この『赤ちゃんのたまごがどうやってできるか知りたい』という感想が4人いた。この時点で、それに答えようかとも思ったが、「もっとこの疑問がクラスの中で飽和状態になってからの方がいい」という大津さんのいつかの言葉を思い出し、ここでは答えなかった。

**4時間目**は、自分の名前の由来を聞き取ってくる宿題もあったので、それを私がクイズにしたり、子どもが自分で三択クイズにして発表したりした。この学年は、東日本大震災の直後に産まれた子どもたちだった。そのせいか、どの子の名前にも親の思いがひときわ強くこめられているのを感じた。「絆和くん」は、「家族や友だちとのつながりが深い人になってほしい。東日本大震災の年だったので

平和を願ってつけました。」とお家の人から由来を聞いてきた。「きずな」っていうのは「人と人の心の結びつき」であることや、東日本大震災についての説明も2年生にわかる範囲でした。その後、東日本大震災をペットの犬の視点から描いた絵本「ぼくは海になった」を読み聞かせした。水をうったようにしーんとして見入り、涙ぐむ子もいた。その後かいた感想では、一生懸命書く子が多かった。特に、BちゃんとC君は、休み時間になっても熱心に机に向かって書いていた。

「みんどこ」の授業では、心を向けてくれる子どもたちであったが、その後もすべてが順調とは全く言えなかった。C君は、その後も授業がわからなくては、集中がきれて他の子のじゃまをしたし、Aちゃん対男子(C君、D君、E君)のケンカは目を離すと大変なことになる状態で、首席の先生にはしょっちゅう来てもらって授業をしたり、休み時間をすごしたりしていた。そんなこんなで、なんとか3学期も終わりの段階にさしかかろうとしている時の緊急事態宣言だった。

## 7. 突然来た「最終日」の授業で・・・

子ども達が帰った後の職員室で「明日が最終日」という知らせをきいた。混乱の中、学年では「このテストと、このテストをして・・・」と成績のためのうち合わせ。そんな中、子ども達からでた疑問に答えていなかったことが頭によぎった。

「明日しかない！」最終日の一時間目は、「みんどこ」の「赤ちゃんのたまごは、どうやってお腹にできるの？」にこたえることにした。

海水パンツをはいた子どもの人型2つ(男子、女子1体ずつ)を貼る。体のつくりのちがいに触れた。そのあと、「女の子の体は、小学校高学年や中学生ころになると、赤ちゃんのもとがつくられるようになること」そし

て「男の子も同様にそれくらいの時期になると体の中で赤ちゃんのもとがつくられるようになる」ことを説明。「みんなのお父さんとお母さんは相談して、この赤ちゃんのもとを合体させたのです。」（絵やペープサートをつかって説明）。最初に、「この授業は命についての授業だから絶対にふざけてはいけません」と言っておいたことと、Bちゃんがふざけそうになる男子に「ちゃんと聞きや！」と適宜制してくれたこともあり、集中してきいていた。感想をそれぞれ書いてくれたが、その日は子どもたちの反応や感想をじっくり確認する時間も十分とれないまま、せわしなく最終日を過ごすこととなる。

## 8. その後のBちゃんの変化

休校宣言で、子どもたちとも急なお別れとなってしまう中、別件でBちゃん親子と会う機会があった。その時のお母さんから、「ステイホーム期間がBちゃん親子には、ゆっくり話す良い機会になった」事を聞いた。Bちゃんがお母さんに「Bと〇〇（新しいお父さん）とどっちが大事か」と詰め寄ったらしい。お母さんは、新しいお父さんの前で「Bちゃんが一番大事！」ときっぱりと断言したらしい。

終業式の日、長い休み開けなのでAちゃんがまた男子たちと激しいトラブルにならないように、ヘルプの先生も事前に頼んでおいた。3学期の途中頃からAちゃんとBちゃんは、二人で結託して私に反抗することがあった。でもこの日、Aちゃんが男子とケンカになり、私にも注意され、ふてくされて反抗的になるのをBちゃんがなだめて制止するのである。

また、「みんどこ」でしようと思ってできなかった「この子はだれでしょう？」クイズを最後の学級通信にいくつか載せておいた。

「答えが欲しい人は、さよならの後で取りに

来てね」と言った。最終日のバタバタで、ほとんどの子は取りに来ることもなく帰っていった。でも、Kちゃんだけは、わざわざ私の所に来て、「このクイズの答えほしい」と言ってきた。

## 9. Bちゃんがキーパーソンだった

Bちゃんは、ものすごいエネルギーを秘めた子だった。それは、いい方向にむけばものすごい勢いでクラスを引っ張る力になってくれる。でも悲しみのあまり、そのエネルギーが周りを攻撃する方に向いてしまうことが度々あった。

## 10. Aちゃんのお母さん

Aちゃんは、特定の男子たちとのトラブルが絶えなかった。けんかの中でけがをすることもあった（両サイドとも）。一学期から度々、管理職と共に、家庭訪問、説明、謝罪などの対応をしてきた。管理職が市教委にかけあい、3年生から支援学級に入級することが決まった。

休校になったことで、私にも少し余裕ができて、Aちゃんのお母さんから今までの苦労話なども聞くことができた。生活科「私が小さかった時」のききとりの宿題がAちゃんだけ出てなくて、ミニアルバムがつくれなかったこともあり何回か提出をお願いした。留守の時もあり、「Aちゃんの名前の由来を教えてください」の旨のメモと学級通信をポストイングした時もあった。講師の任期も終わろうとしていた時、Aちゃんがお母さんからの手紙を学校まで届けてくれた。「Dear 佐々木先生・・・。お手紙いただいていたのに、気づかなくてすみません・・・。4月からがんばってください」と丁寧に書いてあった。このお母さんもまたエネルギーに満ち溢れた人だった・・・。

## 11. 本当は・・・

ほんとは、Aちゃんと「チョコレートの実践（児童労働）」もしたかった。きっとAちゃんなら良い意見をいつてくれた気がする。

学年にも提案してみたが、「この忙しい時に・・・」という感じで困惑された。例年どおりの教科書どおりの道徳の授業と発表会形式の参観を正確にこなす事が優先された。

### 《参考文献》

1. 井上昌次郎「動物たちはなぜ眠るのか」  
(丸善ブックス)
2. 相馬範子「生活リズムでいきいき脳を育てる～子育ての科学98のポイント」(合同出版)
3. 上野山小百合・大津紀子 編著  
「子どもが動き出す授業づくり」(いかだ社)
4. 岡多枝子「だれでもできる性教育プリント」(フォーラムA)